

第16回気づきを築くユニットケア全国実践者セミナー 部門別発表者一覧

部門	種別	施設名	都道府県	部門数
	発表テーマ			
	発表概要			
第1部門 「私たちははじめた、一人ひとりをたいせつにするケアの取り組みで変わった施設ケア（初級編）」	地域密着型特養	ほほえみ	兵庫県	1-1
	苦痛・不快感のない排便、緩下剤0宣言！			
	ご高齢者はADL低下に伴い内臓機能も低下する。一番の悩みは排便である。緩下剤0宣言をし、私たちが取り組んだこと。			
	特養（従来型）	新和苑	熊本県	1-2
	「動きだしは当事者から」の気付き			
	大堀先生の動き出しは当事者から（初級編）に参加して施設内での取り組み。施設内での取り組みから見えて来たこと。今後の取り組みと課題。			
	老健	ウェル青葉	滋賀県	1-3
	事故予防・防止について ～危険予知トレーニングの活用～			
	昨年度、当フロアではインシデント・アクシデント報告の62％が転倒・転落によるものであったため、今回、危険予知トレーニングを導入、指差し呼称を実施して、事故予防・事故防止に取り組んだ結果を考察して発表させていただきます。			
	特養（新型）	一本松荘	熊本県	1-4
	『お願い食べて!!』 ～命の強さとあきらめない私達～			
	食事も点滴も入らず、あと数日と宣告されたK様。「なんとか一口でも」と私たちが始めたのは、一口運動でした。はじめはうまくいかないことばかりでしたが、段々と私たちの思いがK様に届くようになりました。経過と今。			
	特養（新型）	西ノ京苑	奈良県	1-5
	「…したい。」を大切に ～自主性を引き出す環境作りと本人支援～			
	お年寄りとは日頃、色々な「…したい！」を持っています。しかし、様々な場面で出しているサインを私達は見逃しています。そのことに気づき、お年寄りが自主的に動けるような環境づくりと支援の見直しを図りました。			
	地域密着型特養	ビハーラまどか	熊本県	1-6
	職員の思い込み ～利用者様の生活しやすい環境づくり～			
	在宅での生活が主なショートステイ。利用者様が生活しやすい環境を作っていくために、一人ひとりの動きや家での生活を知る取り組みを行いました。			
	特養（従来型）	福光園アネックス	岩手県	1-7
	動き出しは当事者から			
入居当初は要介護5と事前の情報が先に立ち、自分では出来ない方と決めつけてケアをしていましたが、生活を継続していく中で色々な事が出来る事に気づかせていただきました。その気づかせていただいた事を発表させていただきます。				
老健	中部台ケアセンター	岐阜県	1-8	
今、行きたい場所がある ～利用者・家族の思いに寄り添って～				
施設利用初めての利用者同士の外出レク、「最期に家に連れて行ってあげたい」という家族の願い、在宅復帰を控えた利用者様の思い出作り……個々の希望に添うことで利用者様、家族、職員の思いに変化が現れた！				
特養（従来型）	ロングステージKOBEO岡本	兵庫県	1-9	
ご利用者中心ケアの推進に向けた業務と意識の見直しについて				
今日に至るまでご利用者中心ケアとは、安全な環境の中、平穏無事に一日を終了することを優先的に捉えてきたが、果たして生活を実感していただけているのか疑問に感じ、各種委員会を再編し、業務や意識を見直すこととした。				
特養（従来型）	ひかりの園	熊本県	1-10	
動き出しは当事者から ～「できなくなる」ではなく「やらなくなる」～				
1年前待つことで見られた動き出し。しかし体調を崩されたことを理由にM様のせいにして動き出しを止めてしまった。私たちの無関心が止めてしまったことに気づき、もう一度元気になってもらいたいと取り組んだ内容を発表します。				

※掲載順は部門順、申込順であり、発表の順番ではありません。

部門	種別	施設名	都道府県	部門数
	発表テーマ			
	発表概要			
第1部門 〔 私たちがはじめた、一人ひとりをたいせつにするケアの取り組みで変わった施設ケア（初級編） 〕	地域密着型特養	花いずみ	岩手県	1-11
	「動き出しは当事者から」～お年寄りにあったケアを行うために～			
	以前は歩行器を使用し歩行されていたY様。体調を崩されてから状態も落ちてしまいました。まずは自分のできることから始めていき、Y様に合ったケアを職員で話し合い、取り組みを行ってきたことを報告します。			
	老健	洛和ヴィライリオス	京都府	1-12
	「家族様との関わり向上の為に」～利用者と家族を繋げる取り組み～			
	当施設では様々な理由により面会の機会を十分に持てない家族に「利用者の近況を知ってほしい」との思いから“一筆箋”の送付を行っている。実施していく中で抽出された課題を踏まえた取り組みを報告する。			
	特養（従来型）	ひかりの園	熊本県	1-13
	知ってください私の気持ち			
	食えることが大好きであったM様が持病の悪化により経管栄養へ。「動き出しは当事者から」の研修へ参加後“出来ない人”という決めつけから“出来る人”へと変わりM様の想いに応え変わられていく様子をまとめました。			
	特養（新型）	洛和ヴィラ大山崎	京都府	1-14
	私は自由に生活しています～本来の生活に近づけるために～			
	老健から入所となったA氏は向精神薬を服用、歩行不安定であった。A氏に本来の生活を送ってもらいたいと多職種と連携し、様々な取り組みを行った結果、自分の思うように行動できるまでになり、表情も豊かになった。			
	精神科病院	本田記念病院	北海道	1-15
	～動き出しは当事者から～「車いすには飽きた」			
	個別性に合わせた評価により、集団体操やレクリエーションへの参加方法に対するスタッフの意識変化やご本人の生活意欲の向上に焦点を当てた実践について報告する。			
	特養（新型）	寿光荘	岩手県	1-16
	「新築移転」「新規入居者とスタッフ」今スタートラインに立って			
	元気がないから元気になってもらいたい。利用者様を思う気持ちが職員と利用者様をつなぐ。施設の味なんかじゃなく「母の味・家庭の味」を。今動き始めた様々なお付き合いのかたち。			
	地域密着型特養	ビハーラまどか	熊本県	1-17
	動き出しは当事者から～有村様の笑顔～			
	本人がするのではなく、私たちも一緒にする。有村様と関わっていく中で変わったこと、気づいたことを発表させていただきます。			
	小規模特養	大宮フロイデドルフ	茨城県	1-18
	想いを知る為に～T様との関わりで学んだこと～			
	構音障がいがあり、自分の想いを上手く伝えることができないT様。そのため、訴えたいことが言葉にならず、職員も理解できないことから向き合いきれなかった。T様との関わりで「向き合うこと」の大切さについて報告します。			

第16回気づきを築くユニットケア全国実践者セミナー 部門別発表者一覧

部門	種別	施設名	都道府県	部門数
	発表テーマ			
	発表概要			
第2部門 （一人ひとりへの3大介護のあり方とその工夫（基礎編））	特養（新型）	ぬく森	愛知県	2-1
	【心の声を聴かせて ～改めて感じた三大介護の大切さ～】			
	海外で満足な介護を受けられず、身体状態が悪化し、帰国したA様。ショートステイを利用し、その後入居となる。環境が変わったA様の心や生活の変化と、担当した職員の葛藤について発表させていただきます。			
	病院	手稲溪仁会病院	北海道	2-2
	「どこまでも歩けると思うんだ」ご本人のできる！を信じて待つこと			
	急性期病院では認知症や高齢の方は劇的な環境変化に適応しにくく、本来の能力が見えにくいと感じます。今回ご本人のできるを信じて待つことで動き出しにつながり、結果的に歩行や自宅退院に至った認知症の症例を報告します。			
	特養（従来型）	静和園	島根県	2-3
	皆で見つける「その人にとっての快適」			
	重度化が進む特養、そこで行われる三大介護のひとつ《排泄》。ご利用者一人ひとりにあった快適を提供するには？ 尊厳、QOLの向上、快適を見つけるために行った取り組みを発表します。			
	老健	リハリゾート青葉ユニット館	神奈川県	2-4
	足浴がもたらすQOLの向上			
	足浴は足の清潔保持のために行うだけでなく、感染予防や循環促進に有効である。今回、自力で清潔保持が必要な事例に足浴を行い、QOLの向上につながったので報告する。			
	特養（新型）	加古川さくら園	兵庫県	2-5
	食するという事をあきらめない ～あきらめさせない取り組み～			
	退院後、食への関心がなくなり、ターミナルへ移行するケースが多い。食べられなくなった時が最期という考え方と、なんとか食べてほしいという考え方が交錯し、その人にとっての食するという意味について学んだので報告する。			
	地域密着型特養	ジロール麴町	東京都	2-6
	排泄ケアを見直し、そこから生まれる暮らしの変化			
	私たちのユニットではベッド上の排泄交換が中心でした。「トイレに行きたい」という入居者の声をきっかけにスタッフ全員で意識化し、トイレに座る試みをしました。現在までの過程と結果を発表します。			
地域密着型特養	和里（にこり）香芝Ⅱ	奈良県	2-7	
便の形状改善 ～スーパーフード「キヌア」を用いて～				
便形状が健康とされている形状より崩れていることがあり、衣類を汚してしまうなど不衛生なことがある。そこで、便の形状を改善できないかと考え、最近注目されているスーパーフードであるキヌアを用いて評価を行った。				

※掲載順は部門順、申込順であり、発表の順番ではありません。

第16回気づきを築くユニットケア全国実践者セミナー 部門別発表者一覧

部門	種別	施設名	都道府県	部門数
	発表テーマ			
	発表概要			
第3部門 「食の工夫で目指す、その人らしい豊かな暮らし」	特養(従来型)	チブサン荘	熊本県	3-1
	お口の健康は身体の健康 ～口潤ってめざせ長生き～			
	口から美味しく食べ続けるために口腔ケアに注目。単なる清潔保持のためから口腔体操やマッサージ、多職種連携の体制づくりに取り組み、見えてきた変化していくご利用者と職員の意識の変化について発表します。			
	地域密着型特養	いやさか苑	兵庫県	3-2
	高齢・高要介護度の入居者における便秘改善の取り組み			
	いやさか苑では、入居者の平均介護度が4.5と重度であり便秘状態にあり、改善を試みたが難しかった。そこで1日に必要な食物繊維、水分量の目標値の確認及び実態把握を行った内容について報告する。			
	老健	わかな	長野県	3-3
	最期までその方らしい食事を目指して ～こだわりのムース食～			
	心を豊かにする食事の提供を大切にしますというコンセプトに基づいて1食1食のお食事にこだわりをもち、利用者様の心に寄り添い日々歩んでいます。ムース食の提供他、個別の対応を奮闘記にまとめました。			
	特養(新型)	ぽー愛	兵庫県	3-4
	食事風景を見直そう ～車椅子から椅子への座り替え～			
	車椅子は「移動」の手段であり、椅子ではないが、ぽー愛では車椅子に座ったままの食事風景が当たり前になっている。職員の意識調査や毎食事の椅子への座り替えの対策を実施し、改善に取り組む。			

※掲載順は部門順、申込順であり、発表の順番ではありません。

第16回気づきを築くユニットケア全国実践者セミナー 部門別発表者一覧

部門	種別	施設名	都道府県	部門数
	発表テーマ			
	発表概要			
第4部門 「これまでの暮らしの継続をたいせつにした生活環境づくり」	特養(新型)	ラスール伊達	福島県	4-1
	お客様が自分の居場所と感じられるようにしたい			
	ユニットにおいてお客様の帰宅願望による徘徊行動により離設しかけるというヒヤリがあった。これによりユニット会議をとおしてどういう対応が必要か検討した。「お客様が落ち着く、または自分の居場所と感じられる環境」を提供し、お客様の帰宅願望が落ちつき安心した生活を送っていただけるよう支援することを目的として取り組んだことを発表する。			
	特養(従来型)	ピースポート	鳥取県	4-2
	個別ケアを目指して 先ずは環境改善から			
	従来型の既存のスペースを工夫して、こじんまりした家庭的な空間を作りました。実施半ばではありますが、ご利用者・ご家族の声を聞き、職員のモチベーションがアップしたことなど成果を報告いたします。			
	特養(従来型)	山科苑	京都府	4-3
	最期までその人の想いに向きあう			
	開設20年目という節目の年から、業務、施設時間、生活環境を大きく見直した。その中で好きなことを、好きな時に、好きな場所で。その人の時間や“おもい”に最期まで合わせていく取り組みをどのように行ってきたかについて発表する。			
	特養(新型)	宝塚ちどり	兵庫県	4-4
	その人らしい暮らしの実現に向けて			
	ご利用者2人の事例から、現在の施設での1日の暮らし方を書き出した。その後、ご利用者様(ご家族)に、入居前の暮らしをもとに聞き取りを行い、二者を比較することで、これからのケアについて考察した。			
	デイサービス	ひかりの園	熊本県	4-5
	デイサービスが180° 回転 ～利用者主導のデイサービスへ～			
	業務中心のデイサービスから居場所をつくり、居心地となり、ご利用者同士の支え合いが“心も身体も元気”になれる。「利用者主導のデイサービスへの変化」⇒「在宅生活継続へのつながり」			
	特養(新型)	和里(にこり)	奈良県	4-6
	ユニットリビングの利用状況に関する調査			
	ユニットリビングの利用状況や工夫、配慮している点について、アンケートと調査を行った。この結果から、ユニットリビングの現状について知り、良い点を共有することで環境を改善していく上でのきっかけとする。			
	佐賀県	お元気横丁	佐賀県	4-7
	信じて待つことの大切さ ～私たち介護者が生活を奪っていた事実～			
待つ事のできない介護者主体のケアにより、これまで多くの「動き出し」を阻止していた事に気付かされた現在、この方を何とかしたいという想いで、どんなに些細な動き出しのサインも見逃さないケアに挑戦中です。				
長野県	さわらび	長野県	4-8	
車椅子上での正しい姿勢で快適な生活を送る				
ポジショニングを行う上で、クッション等を利用し利用者様を車椅子に合わせるのではなく、車椅子自体を利用者様の身体に合わせて調整することにより、正しい姿勢を維持し、快適な生活につながるよう支援した。				
福岡県	ひびき。	福岡県	4-9	
ありのままを受け入れて ～動き出しは当事者からの実践～				
どのようにしたらその方に寄り添うことが出来るか皆で考え、これまで実践してきた「動き出しは当事者から」の視点を「心の動きだし」にスポットを当て、ご本人に寄り添い、ありのままを受け入れ、日々の暮らしの意欲につながる支援に取り組んだ。				
京都府	おおみや苑	京都府	4-10	
認めてもらえる喜び ～私にも出来ることがたくさんある～				
「できない」「難しい」という固定概念にとらわれず「できること」を大切にに取り組んできたことを紹介します。				

※掲載順は部門順、申込順であり、発表の順番ではありません。

第16回気づきを築くユニットケア全国実践者セミナー 部門別発表者一覧

部門	種別	施設名	都道府県	部門数
	発表テーマ			
	発表概要			
第4部門	長野県	松風	長野県	4-11
	心体拘束から「自分らしく」を叶える為に…			
	入院時、身体拘束を必要とされていた方が、ユニット型の当施設に入居されてから、現在までのケアの記録である。①ご本人・家族の思い②暮らしの継続を実現すること。上記の2点を軸に行った実践結果の報告となる。			
	香川県	三豊市立西香川病院	香川県	4-12
	私らしく過ごせる場所 ～第二の家別荘～			
	デイケアを利用されている認知症の方を対象に、職員宿舎を活用し、利用者4～5名の少人数のケアを試みた。家庭的な雰囲気の中で過ごす中で、少人数でのケアが利用者に及ぼす影響について報告する。			
	奈良県	西ノ京苑	奈良県	4-13
	お年寄りが「自由に使える」「自分でできる」環境づくり			
	お年寄りがができることはたくさんあるのに、職員が全部することで、忙しく動いてしまう！そこで、お年寄りが「自由に使える」「自分でできる」環境を整えることで「出来る」ための支援を進められる現場へ…			

※掲載順は部門順、申込順であり、発表の順番ではありません。

第16回気づきを築くユニットケア全国実践者セミナー 部門別発表者一覧

部門	種別	施設名	都道府県	部門数
	発表テーマ			
	発表概要			
第5部門 「介護者家族との協働で実現する、その人らしい暮らし方」	兵庫県	ゆうらぎ	兵庫県	5-1
	ご家族と過ごした時間 ～安心感という宝物～			
	日常会話から「家に帰りたい」という思いを叶えるために自宅帰省と個別に応じた行事を実施した。2つの事例から本人の実施前と後での心身の状態変化や、ご家族との関わりの重要性について発表する。			
	茨城県	大宮フロイデドルフ	茨城県	5-2
	職場環境の改善と職員の自発性向上を図る取り組み			
	開設より業務に追われ、職員の意欲低下が見られていた中で、職場環境の改善によりご家族様との関係性構築と、職員の自発性向上につながった取り組みについて報告いたします。			
	長野県	ふれあいの里	長野県	5-3
	利用者一時帰宅実施に向けた取り組み			
	高齢化がすすみ面会に来ることが困難なご家族が増えている現状を受け、施設として利用者の一時帰宅を提案し、実際に実施してみた様子を報告します。			
	東京都	ありすの杜きのこ南麻布	東京都	5-4
	本人の思い、家族の思いをどう支えていくか。1番大切なことは何か。			
	肺気腫進行により意識レベル低下し、家族は連日泊まり込み……その中でうまれた不安、家族間の思いのすれ違い、余命2週間とドクターから申告されて……。			
	兵庫県	こすもす倶楽部	兵庫県	5-5
	ショートステイのご家族に対する家族交流会			
	ショートステイをご利用されている利用者様のご家族は日々様々な思いや悩みを抱えておられる。介護をすることへの負担や利用することでの不安や申し訳なさ等の葛藤もある。そのようなご家族に対して「ご家族の葛藤を深く知りたい」「力になりたい」「ご家族同士の交流の場を作りたい」という思いからショートステイを利用されているご家族を対象にした家族交流会を開催した。			
	茨城県	大宮フロイデドルフ	茨城県	5-6
	O様の想いに寄りそう ～伝えられない想いとは～			
	構音障がいにより上手く話せないO様の本当の想いとは何なのか？ O様に寄り添う中で「トイレに行きたい」という想いを感じた職員が、ご家族様の想いを受け止め理解を得ながら取り組んだ事例を報告する。			
	東京都	洛和ヴィラサラサ	東京都	5-7
	それでも2人で暮らしたい ～施設入所から在宅復帰するまで～			
	病院退院後、在宅生活が難しいため、リハビリ目的で入所したA氏。奥様の介護知識も乏しい中で、A氏のADL向上と奥様の介護知識向上を目指す取り組みを行ったので報告します。			
	青森県	素心苑	青森県	5-8
	ただいま『フン』闘中!! おむつをつけて自律できますか？			
	今年90歳。入居当初の経鼻栄養カテーテルから経口摂取に成功！ さらに今春からトイレで排泄にチャレンジ。本人・家族・支援員のトリプルチャレンジは続く。180日間の「フン」闘記をご紹介します。			
	香川県	三豊市立西香川病院	香川県	5-9
	「こんなばあさん、いらんのやわ」～言葉に隠された想い～			
	Aさんは夕方になると、不安・焦燥感が強くなり、それが行動や言葉に表れる。その言動に対してスタッフは、Aさんの本当の想いを探っていったことについて学びがあったため報告する。			
	東京都	ありすの杜きのこ南麻布	東京都	5-10
	ご家族との協力で実現したこと「みんなで飲みたい！」			
	製作所を経営していた氏は仕事後社員を連れていきつけの居酒屋に行ったり、家でお酒を飲むことが習慣だった。ご家族の協力のもと、氏の馴染みの場所への外出や生活の習慣も少しずつ実現することができた。			

※掲載順は部門順、申込順であり、発表の順番ではありません。

第16回気づきを築くユニットケア全国実践者セミナー 部門別発表者一覧

部門	種別	施設名	都道府県	部門数
	発表テーマ			
	発表概要			
第5部門	京都府	洛和ヴィラ桃山	京都府	5-11
	食べられる・食べていただける喜び ～食は人の心をやわらかくする～			
	野菜の繊維がかみ切れず、口から出してしまうA様への家族さまの思いを汲み、軟菜食の導入を試みた。結果、食欲が高まり、体重も増えたことでA様への家族様の関わりに変化が見られた。その過程を振り返り報告します。			
	愛知県	大地の丘	愛知県	5-12
	家族との絆 ～一緒に過ごす時間を大切に～			
	自宅での生活が困難になったIさん。「施設に預けてよかったのか？」とご家族が抱えていた葛藤や思いに寄り添った結果、「ここで暮らしてよかった」と言われました。本人と家族の思いをつないだ取り組み報告です。			

※掲載順は部門順、申込順であり、発表の順番ではありません。

第16回気づきを築くユニットケア全国実践者セミナー 部門別発表者一覧

部門	種別	施設名	都道府県	部門数
	発表テーマ			
	発表概要			
第6部門 「認知症の方とのコミュニケーションの工夫」	福井県	第三光が丘ハウス	福井県	6-1
	認知症で不眠のIさんが眠れるようになった訳			
	家族、ショート棟職員から「夜は寝ないんです」と引継ぎを受けて入所したIさんが寝られた訳……それは私たちも毎日していることだった！？そして専門職から求められるような情報屋としての介護職へ……。			
	佐賀県	お元気広場	佐賀県	6-2
	親子の会話をもう一度 ～伝えたい本当の想い～			
	併設して宅老所が既存し、訪問医療との連携も含め、1日を通した総合的なケアを行っています。今回の事例では、短い期間で沢山の学び、想い、感動を頂くことが出来ましたので、その経過を発表させていただきます。			
	熊本県	コスモス通所リハビリテーション	熊本県	6-3
	認知症により徐々にADLが低下し周囲に対して閉鎖的となっていた利用者に「動き出しは当事者から」の研修会で学んだ本			
	認知症により徐々にADLが低下し周囲に対して閉鎖的となっていた利用者に「動き出しは当事者から」の研修会で学んだ本人の意思を尊重し、動き出しを待つことを活用した。結果、心を開かれた事例。			
	京都府	神の園	京都府	6-4
	3秒 ～大切な時間～			
	施設理念「どんなときもあなたの苦しみ、悲しみ、喜びを共に感じ共に歩んでいきます」実現を目標に、認知症ケア向上委員会を中心に「パーソン・センタード・ケア」「ユマニチュード」から、認知症の方との「絆」を深める取り組みを行っている。過去・現在を評価し、より良い認知症ケアの土台作りのために動き出した、その過程と成果。			
	島根県	松楽苑	島根県	6-5
	笑顔を増やそう ～職員参加型のリハビリ体操～			
	職員参加型のリハビリ体操(鳴子踊り等)をとおして、利用者と職員がコミュニケーションを取り、一体感が生まれた。			
	愛知県	結いの郷	愛知県	6-6
	生活支援の基本は待つ事から。動き出しを大切にすることで見えてくる気づき			
	香川県	三豊市立西香川病院 認知症疾患医療センター	香川県	6-7
	A氏とのかかわりから学んだこと			
	初期の認知症のA氏。A氏との継続したかかわりの中から、不安や葛藤、悩みなどを語っていただけた。そこから学んだ初期の方への心理的支援について発表する。			
	大阪府	博愛の園	大阪府	6-8
	本人のやりたいこと・できることを制限しない関わり方とケア			
	入所以前から外へ出かけることが好きだったAさん。一人で出かけられると帰って来られなくなるので、見守り、一緒に出かけるようにしていたが、慣れたころに行方不明になってしまい、新たなアプローチに挑戦しています。			
	愛知県	清洲の里	愛知県	6-9
	認知症で耳が聞こえにくい方への関わり方 ～安心して生活を送っていただくために～			
	その人らしく笑顔の絶えない居心地の良い暮らし」という基本理念のもと、認知症であることと耳が聞こえ難いことにより意思疎通が困難な方の不安を解消し、笑顔で安心して過ごしていただくための取組を発表します。			

※掲載順は部門順、申込順であり、発表の順番ではありません。

第16回気づきを築くユニットケア全国実践者セミナー 部門別発表者一覧

部門	種別	施設名	都道府県	部門数
	発表テーマ			
	発表概要			
第6部門	福岡県	有料老人ホーム 杏	福岡県	6-10
	『互いに動き出す心』			
	もう一度自分たちの介護の実態を振り返るために動画を撮影するとご本人の思いを無視し、“待つことのない介助の様子”が浮き彫りとなった。“できない人”に“されていた”ことに気づき、“ご本人の思いに寄り添う”“動きだしは当事者から”“関わる”ことを目標に実践に取り組んだ。			
	茨城県	御前山フロイデガルテン	茨城県	6-11
	特養でのドッグセラピー活動について(動物介在活動)			
利用者様の情緒的な安定やQOLの向上、ふれあいを楽しむ目的として実施しました。今回の発表では事前に利用者様の情報収集等の準備や実践内容とその結果を報告したいと思います。				

※掲載順は部門順、申込順であり、発表の順番ではありません。

第16回気づきを築くユニットケア全国実践者セミナー 部門別発表者一覧

部門	種別	施設名	都道府県	部門数
	発表テーマ			
	発表概要			
第7部門 「ターミナルケアから学んだこと、考えたこと、伝えたいこと」	福島県	みどりの郷	福島県	7-1
	「ありがとう。行けて良かったよ」～A様享年93～			
	平成27年4月、みどりの郷に入居される。退院され直にみどりの郷に来られるが、状態もお変わりなく、“看取り”の同意書をご家族にいただく。しかし、入居されてからはご自分で食事をされるなど回復される。だが、今年の3月頃から居室で過ごすことも多くなり、「世話になったな」との言葉が多く聞かれるようになった。A様の思いはなんなのかを知り、私たちができることはなんなのか取り組んだことを発表したい。			
	福岡県	遠賀園	福岡県	7-2
	家族(の一員)として取り組む看取りケア			
	当施設の理念であり、運営方針である「ご利用者(ご家族)に対する家族の一員としての真心を込めたケア」を看取り介護を通じて実践することで「顧客満足度の向上」や「ご家族との信頼関係の構築」の実現につなげる。			
	和歌山県	クレール高森	和歌山県	7-3
	暮らしの中で家族と共に看取る			
	ご家族の揺れ動く気持ちに寄り添い、希望に添って看取りケアを行った事例。			
	奈良県	西ノ京苑	奈良県	7-4
	「たっちゃん」と呼んでくれたSさんの看取りから学んだこと			
	3年前、初めて担当したSさんの看取りを経験し、今改めて目の前のお年寄りとの過ごし方を考え、自分に足りないことに気づいてやり直した取り組みを発表します。			
	岐阜県	エバーグリーン	岐阜県	7-5
	開設して12年、看取り介護の動向と気づき			
	開設して12年、平成18年1月に施設で初めての看取り介護を行い、平成28年9月までに107名ものご利用者様を施設で看取りました。その中で学んだこと、考えたこと、気づいたことを伝えたいと思います。			
	京都府	神の園	京都府	7-6
	～「怖い」から始まった。ターミナルケア～			
	「怖い」「どう接すればいいのかわからない」から始まった、終末期を迎えた方との関わり、入職して3年で自分たちがターミナルケアに関して「考えたことや学び」「自分たちの成長」に関する実践報告。			

第16回気づきを築くユニットケア全国実践者セミナー 部門別発表者一覧

部門	種別	施設名	都道府県	部門数
	発表テーマ			
	発表概要			
第8部門 【職員同士のチームケアや多職種との連携】	特養(従来型)	博愛の園	大阪府	8-1
	博愛の園での学びをサテライト特養でどのように活かすか			
	既存特養で実践してきたこと、実践しなかったけどできなかったことを振り返り、サテライト特養で運営方針に沿って非日常をいかにして日常にし、お年寄りの普通の暮らしを実現していくかを理念も含めて発表します。			
	特養(新型)	ありすの杜きのこ南麻布	東京都	8-2
	私たちらしい地域交流のかたち『きのこのこのこカフェ』			
	平成28年4月から毎月1回、「きのこのこのこカフェ」という地域に開かれたカフェを行ってきました。現場の介護士やボランティアの力を借りて少しずつその輪が広がってきています。その取り組みについて発表します。			
	特養(従来型)	五色・サルビアホール	兵庫県	8-3
	「生まれ故郷に帰省したい」を実現するために			
	意欲の低下していたOさん、多職種で連携しOさんの希望の実現に向けて取り組んだこと。			
	小規模多機能型居宅介護	オハナハウス	福島県	8-4
	在宅生活を続ける為に			
	息子様と同居はしているが協力は求められず、自宅もご本人様の昔の書類が足の踏み場もなく広がり、決して衛生的ではない環境で生活していたA氏が小規模多機能ホームを利用になった。認知症があり、内服管理ができずに血糖コントロール不可となり入院した経緯があるA氏の「これからもこの家で暮らしたい」との希望を叶えるため、小規模多機能ホームとして取り組んだことを発表する。			
	特養(新型)	福光園	岩手県	8-5
	「動き出しは当事者から」～暴力行為の裏に隠された真実～			
	暴力行為が酷かった……顔色をうかがい、怯えながら関わる日々。私たちはただただ我慢するだけだった。「動き出しは当事者から」を取り組み、自らが動き出すことでその方と私たちスタッフにも大きな「変化」と「気づき」が生まれた。			
	特養(新型)	みゆきの郷	石川県	8-6
	温泉旅行で得られたこと。緊張とリラックス、大家族の団らん。			
	特養入居者7名(平均介護度4.4)をお連れした温泉旅行の内容。企画段階からの不安や課題をクリアしながら職員のチームワークが結束していく様子。費用負担と職員配置。温泉旅行をやり遂げた効果など。			
	特養(新型)	ジョイフル千種	愛知県	8-7
	褥瘡に対する意識・知識・士気			
	施設内全職員の褥瘡に対する意識・知識を高め、士気の高い職員を増やすことで褥瘡の発生を0に近づけることを目標に、褥瘡対策委員会が中心となって、勉強会、小テスト、処置の見学等の活動を行った。			
	通所介護	西ノ京デイサービスセンター	奈良県	8-8
	デイサービスセンターのお客様満足度向上を目指して			
	デイサービスの運営に必要な職員間の連携は、ご利用者の満足度に直結します。サービス提供時間において、全ての職種が揃う利点を生かしたチームケアとセクショナルリズムが払拭される経過と実践の報告を行います。			
	特養(新型)	大地の丘	愛知県	8-9
	多職種によるチームケアへの第1歩 ～看護職の食事ケアへの関わり～			
	入居者の重度化に伴い食事に関する支援員の役割は大きく、日々の不安や焦りにつながっている。今回支援員の不安が軽減でき、入居者が安心して食事をするための看護職の食事ケアのかかわりに取り組んだ。			

※掲載順は部門順、申込順であり、発表の順番ではありません。

第16回気づきを築くユニットケア全国実践者セミナー 部門別発表者一覧

部門	種別	施設名	都道府県	部門数
	発表テーマ			
	発表概要			
第8部門 【職員同士のチームケアや多職種との連携】	特養(従来型)	丹後園	京都府	8-10
	その人らしい生活を支える為に、チームで繋げる日常リハビリ			
	生活リハビリを通して安心・安楽な生活を支える。ご利用者様と直接接する機会を通し、チーム全体がご利用者様の生活に意識的に目を向け、日々の気づきからの情報共有、連携強化につなげる、継続し先につなげる取り組み。			
	病院	三豊市立西香川病院	香川県	8-11
	「待つ」大切さ ～『動き出しは当事者から』がもたらす効果～			
	「動き出しは当事者から」の講演を聴き、A氏が主体的に動ける関わりを行ったことで、ご本人の動き出し動作を待つことの大切さに気づいたため、私たちの学んだ事について報告する。			
	特養(新型)	和里(にこり)	奈良県	8-12
	腸内フローラ改善の取り組み			
	下剤の使用頻度が多い経管栄養の生活者7名に対して、自然排便を促すことを目的に、YHフローレを用いて腸内フローラの改善に取り組み、便秘・下痢の改善をはかった。			
	特養(新型)	ユニットケア慶和園	北海道	8-13
	【 配慮 ～想いを形に 】			
	「ご利用者様が満足する生活を少しでも提供できたら」というチームの取り組み。上手くいったり、いかなかったり…。そこから見てきたご利用者の姿に感動と反省、そして新たな試みの発表。			
	特養(従来型)	ソエル花泉	岩手県	8-14
	“ホットメッセージ”を寄せて ～心につながる言葉を実際に声に出して～			
	利用者が不穏になったりするのは、職員間のチームワーク(コミュニケーション不足)が関わっているのではないかと。そのために職員間のコミュニケーションを図るために取り組んだことを発表します。			
	地域密着型特養	せとうちの郷	岡山県	8-15
	HAPPY SMILE 笑顔で充実した生活を送っていただくために			
	利用者様、ご家族様を対象にしたアンケートを実施し、1人1人の利用者様に対し、長期・短期目標を設定。モニタリング表作成、実施記録、再評価を通して利用者様と関わる中で学んだことをまとめたものである。			
	特養(従来型)	御前山フロイデガルテン	茨城県	8-16
	自力摂取の継続を目指して			
	生活意欲が低下し、食事・水分の摂取量が安定しないY様に理学療法士・歯科衛生士を含めた多職種と連携・協力を得て、どうすれば安定した摂取ができるのか検討し、取り組んでいる経過を報告します。			
	多機能型集合住宅	健院L-CUB	福島県	8-17
	高次脳機能障がいのある症例へ活動性向上を目指した取り組み			
	高次脳機能障害を呈し活動性が低い症例に対し、活動性の向上を目的として訪問リハビリ介入となった。多職種で連携して取り組みを行ったことで活動性の向上がみられたため報告する。			

※掲載順は部門順、申込順であり、発表の順番ではありません。

第16回気づきを築くユニットケア全国実践者セミナー 部門別発表者一覧

【第9部門】 施設の人材確保、職場の環境づくりについて

部門	種別	施設名	都道府県	部門数
	発表テーマ			
	発表概要			
施設の 人材確保、 職場の環境づくり	地域密着型特養	洛和ヴィラ大山崎	京都府	9-1
	ケアの標準を目指して ～勉強会を通じてレベルアップにつなげる～			
	介護士の個々のレベルアップを目指すため、月2回の勉強会を開催した。その効果や評価を図るにあたり、介護士にアンケートを実施し、その結果、個々のレベルアップにつなげる方法や内容及び今後の課題について検証した。			
	特養(新型)	いしどりや荘	岩手県	9-2
	「まずやってみよう」の気持ちと行動			
いま、私たちがやりたいこと、それをすることによって「入居者が一人でも喜んでくれるなら」の思いで取り組んだ事例を紹介します。失敗を繰り返しながらやることで、職員間の結束、入居者、家族の笑顔が増えた事例です。				

※掲載順は部門順、申込順であり、発表の順番ではありません。

第16回気づきを築くユニットケア全国実践者セミナー 部門別発表者一覧

部門	種別	施設名	都道府県	部門数
	発表テーマ			
	発表概要			
第10部門 【スタッフの育成、工夫したこと、苦労したこと】	特養(新型)	ぬく森・第二	愛知県	10-1
	イチから始まる介護・指導 ～開設から2年間の取り組み～			
	職員の50%が未経験。うち、男性が70%超という状況の中、ユニット型特養を立ち上げて2年が経過した。この2年間、スタッフの指導や育成で苦労したこと、工夫したことを発表したい。			
	特養(新型)	愛しや	兵庫県	10-2
	リーダーの在り方 ～超変革！～			
	ユニットケア推進のためのチームマネジメント、部下の管理・監督・育成はユニットリーダーの重要な責務です。私たちはリーダーの意識やあり方を変えることでケアの質の向上と組織活性化を目指しています。			
	特養(新型)	HOME TOWN コスモス	福井県	10-3
	笑顔を届けよう ～読みやすい、見やすい広報誌を目指して～			
	法人の理念である「笑顔の創造」に基づき、入居者、利用者が生き活きと楽しく過ごされていることを家族や地域の方に発信しています。介護職員中心で活動している広報委員会の取り組みを報告します。			
	老健	リハリゾート青葉ユニット館	神奈川県	10-4
	ユニットケアフロアのリーダー育成			
	ユニットケアを行う中で重要な点は教育-指導であると考え。ユニットケアの成功のためにもユニットリーダーの成長は不可欠であるため、どのような展開をしたか発表する。			
	特養(従来型)	静和園	島根県	10-5
	「寄り添うことの大切さ」～私の経験を生かした育成方法～			
	職員の育成方法の一つとしてエンゼルケアに携わってもらいました。ご利用者様の死と向き合い、ご家族といっしょに旅立ちの準備を行うことで、自身のケアを振り返り、何が大切かを考えられる職員の育成を目指しています。			
	地域密着型特養	笑寿苑	島根県	10-6
	ツールは使い方次第 ～やられて嫌なことやめようぜ～			
	現在、私たちのユニットでは介護度平均3.95で重度化している現状があります。福祉用具を使うことによって入居者、スタッフの負担軽減を目的としその中で見えてきた入居者との関係や変化を発表させていただきます。			
	老健	リハリゾート青葉	神奈川県	10-7
	スタッフ育成 ―その課題と展望―			
	介護の人材不足はますます深刻な問題となっている。新たな確保だけでなく、離職を防ぐ職場づくりもまた重要な課題である。今回、施設内教育にラダー方式を活用して人材育成への新たな展開が見えてきたので報告する。			
	特養(従来型)	千鳥会ゴールド	兵庫県	10-8
	スキルツリー第3弾 ～施設全体の介護技術向上を目指して～			
	平成23年より介護技術向上に取り組み始め、今年度は施設全体の技術をさらに向上させていくためにマニュアルを作成し、それを基本にスキルツリーメンバーが職員に伝達、指導を行い、統一したケアを目指してきました。			
	特養(従来型・新型)	西ノ京苑	奈良県	10-9
	職員間の意思疎通を図るためのスーパーバイズ			
	職員数が多くなると、職種間や職員間での歪みが出ています。お年寄りの生活を中心とした職員の意思を担保するために相談員として行っているスーパーバイズについて報告します。			

※掲載順は部門順、申込順であり、発表の順番ではありません。

部門	種別	施設名	都道府県	部門数
	発表テーマ			
	発表概要			
特別部門 （思いのままに実践発表 （ショート枠10分））	ヘルパー事業所	博愛の園	大阪府	S-1
	博愛社の次世代を担う私たちが考える法人の輝ける未来像！			
	中堅職員となり、自分たちの職場の未来を担う立場から「10年後の博愛社を考える会」を発足。従来の法人内の縦割りの関係に疑問を抱き、横のつながりの必要性を感じた結果、私たちが行った実践について……。			
	通所リハビリテーション	こころ上牧	奈良県	S-2
	利用者様は同世代 ～まだまだ現役～			
	一億総活躍社会を目指す現在、元気で喜びを持って働くことができること、この仕事を通して自分の人生にどのような影響を受けたのか、高齢者にどのように接していくのか、自分の体験を通して話したいと思います。			
	老健	しんあい	大阪府	S-3
	「ぼけてきたわ。どうしよう」日記を通して不安をなくそう			
	認知症には脳に刺激を与え活性化させることで、予防や進行を穏やかにすることができるといわれている。日々の生活の中に日記を取り入れることで対象者に良い変化が現れたのでここに報告する。			
	特養（新型）	グレイスフル上前津	愛知県	S-4
	飲もう！歩こう！トイレに行こう！			
	利用者様がいつまでも元気でいる環境作りが利用者様のためでもあり、職員の業務効率のアップにもつながります。私たちは「いつまでも元気にトイレに行ける生活」をコンセプトに取り組みました。			
	老健	しんあい	大阪府	S-5
	「できること探し」が利用者を変化させる			
	施設という限られた生活空間の中で「その人らしさ」を追求しできる援助とは何か。「できること探し」が認知症利用者の拒否を軽減し「何かやることある」と積極性をもたらした一例を報告する。			
	特養（従来型）	あしや喜楽苑	兵庫県	S-6
	入居前に住んでいた地域とのつながりをいつまでも			
	入居者が地域住民と交流する機会として地域行事に参加している取り組みを発表します。入居前の居住地域の行事、入居者の家族が立ち上げた地域行事等、なじみのある人と再会できる場に行くというのが大きな特徴です。			